

これからの時代を 生き残れる 学校と教師とは

2013/6/23 SUN



NPO法人
学生キャリア支援ネットワーク
「近未来教育変革研究所」
所長 藤井秀一

講師・藤井秀一 略歴

- ◎ 1968（昭和43）年 2月 4日 東京生
- ◎ 東京都内の私立高校で21年間勤務
 - 学年主任・教科主任・学校経営改善委員・生活指導副部長・入試企画相談室委員ほか
 - 学年主任となり1年でクレームを7分の1に削減
 - 全校生徒の4分の1以上を営業担当地域から集客
 - 平日実施の謝恩会にクラス保護者の88.9%が参加
 - 東日本大震災では現場の総監督（クレームゼロ）
 - 学園理事会との協働により、生徒数減少を好転
- ◎ 昨年より個人事務所、NPO法人での役職、（社）国家ビジョン研究会に所属・活動

はじめに～整理してみましよう

- ◎ 教職をめざす理由と想い
- ◎ 講師・藤井の回想
 - 中学1年生 ⇒ 「日本文化が消える？」
 - 高校時代 ⇒ 『葉隠』・『武士道』・森鷗外
 - 大学時代 ⇒ 日本文化・文明が消滅する危機感

平成の教育界と時代背景

～極大化する「私」／「共感力」の未熟さ

◎ 個人主義と教師の仕事の変化

- 1947年『教育基本法』
- 1968年『消費者保護基本法』

◎ 時代の変化と今後の社会

- 1995年『製造物責任法』
- 2004年『消費者基本法』

◎ これからのアプローチに必要なもの

- 教育の大義と先鋭化した消費者意識への対策

国家百年の大計

～3年後の日本の姿を語れるか

◎ 近現代145年の日本

- 数回の国家的危機と復興 ⇒ ベンチャーの活躍

◎ 大震災からの復興と「新しい日本」

- パラダイムの変化 ⇒ 「個」から「きずな」へ

◎ なくなりつつある国境

- バーチャルからリアルへの無国境化

戦後民主主義と教育者

～真の資本主義社会と向き合うために

◎ 教師の個人主義

- 戦後教育の指針と教育の本質との矛盾

◎ 価値獲得と価値提供

- 資本主義の原則が顕在化
(価値交換でしか経済は動かない)

◎ 「佳き国民性」を築く

- 東日本大震災で見た日本の「こころ」
グローバル・スタンダードとしての国民性
(日本型新道徳の世界標準化)

これからの時代を生き残れる学校 ～顧客意識と付加価値

- ◎ 十数年前の「学校改革」ブーム
 - 「見せかけ・着せ替え」に終わらなかったか？
- ◎ シーズからニーズへ
 - 経済原則の厳格化 ～ 価値交換
- ◎ 偏差値崇拝からの脱却
 - 「個」と「きずな」
- ◎ 「信条のフィルタ」
 - 教員採用と生徒募集の最重要条件
- ◎ 顧客の「ROI」に気付く
 - 給料・授業料を超える対価 = 「選ばれる理由」

これからの時代を生き残れる教師

～総合力×専門力×経営観

- ◎ ゼネラリストであること
 - ◎ スペシャリストであること
 - ◎ 組織の運営者であること
- 時代変化の一步先を読む（要求されるものは？）
 - 自分を語るな、生徒を語れ（人生に残すもの）
 - 卒業後30年先まで責任をとれ（3代先まで影響）
 - 学校の経営責任の一端を担え（絶対必要な人？）
 - クレームは「ありがたい」学び（沈黙こそ恐怖）
 - 「専門バカ」の誘惑に勝つ（他人の金で遊ぶな）

めざすべきもの

～一人の教師として、教師の一人として

- ◎ 一人の教師として
 - 「あの学校に行けば〇〇先生がいる」
- ◎ 教師の一人として
 - 国家国民、そして世界へのコミットメント
- ◎ 現場教員の視点×教育の世界を変える視点
 - アリの目 ⇔ トリの目

おわりに

～展望・使命・目的・夢

- ◎ 語るべき「自分」を持つこと
 - 信念・信条・主義・倫理観
- ◎ 語られる「自分」を考え続けること
 - 生徒・保護者からの評価、社会からの評価
- ◎ 本日のご参加へのお礼
 - 「聞いて終わり」なら、意味がない……

鴻鵠の志を……

- ◎ ご清聴ありがとうございました

今日からさっそく
日本を変えてください！
期待しております！